

大地と水と育てる人
そして着る人にもやさしいオーガニックコットン
Sisam Organicができるまで



India

チェトナの活動地域は中部インド。とても乾燥した土地柄です。



チェトナ・オーガニックのビジョン

古くからコットンを作っていたインド。しかし、次第に1度きりの生産性だけを追求して、雑草を枯らす枯葉剤、病害虫に対する殺虫剤が大量に使われるようになりました。多国籍企業が持ち込む遺伝子組み換え種がさらにこの悪循環を加速させます。種と農薬を入手し続けるため、農民は多額の借金に苦しめられています。そんな中、「社会経済的に持続可能な農業」を行うことを目標に優秀な人材が集まり、活動するチェトナ・オーガニック（以下チェトナ）に、シサム工房は出会いました。今ではチェトナに関わる農民たちが、以前とは違う、健康で安定した暮らしを取り戻していています。

エコセンター

チェトナは各地にモデル農場「エコセンター」を作っています。村人たちはここに自由に出入りし、専門家から指導を受けることができます。

コットンは年に1度しかできないので、農民たちが年中何か換金作物を収穫できるよう、実例を示しているのです。



農地で採れた無農薬野菜だけを使ったおいしい食事！



遺伝子組み換えでない、良い種の研究と普及も、チェトナが大事にしていることの一つ。

村人の育成

村人への農業指導は、村人自身の中から選んで育成した「リソース・パーソン」と共に行います。そのほとんどが女性！学習施設も運営し、農家の子どもたちへのIT教育や補習授業なども行っています。

Chetna Organic



有機農業へのこだわり

もちろんチェトナがモデル農場で追求する技術は有機農業です。植物やテントウムシを使った害虫対策や、ミミズ堆肥づくり、肥料になるパイオツリーの育て方など、丁寧に村人たちに教えています。新たな井戸で土地を枯れさせることなく灌漑できるよう、溜池の手法も指導しています。

未来のリーダーたち?!



Chetna

コットンの収穫

チェトナが支援する25,000家族のうち半数以上がコットン栽培に携わっています。収穫期を迎えると、農家さんはできた綿を手でひとつひとつ摘んでいきます。枯葉剤で枝葉を枯らし、大きなトラクターで一気に収穫するのは違い、遅くとも自然と調和のとれた採取を続けています。しかし、今も全インドのコットン収穫量のうちオーガニックコットンはたったの1.4%です。



製品へ

摘まれたコットンは糸にされ、オーガニックコットン製品のみを扱うラージェラクシュミのGOTS※取得工場へ運ばれます。コルカタとデリー近郊で、それぞれカットソーとニット製品が出来上がるのです。シサム工房の開発スタッフが工場を訪れ、指導も行っています。



ニットの工場

※GOTS (Global Organic Textile Standard) : 原料から紡績、縫製、出荷まですべての段階でオーガニックコットンの純粋性を証明する最も厳しい国際認証

Kolkata



カットソーの工場

シサム工房へ！

Kyoto

